一、精神病院法施行令（大正十二年六月三十日勅令第三二五号）

第一条 国庫ハ精神病院法第一条ノ規定ニ依リ設置スル精神病院ノ経費ニ対シ左ノ区別ニ依リ補助ス

一 創設費及拡張費並之ニ伴フ初度調弁費 支出額ノ二分ノ一

二 其ノ他ノ諸費 支出額ノ六分ノ一

前項ノ支出額トハ事業ニ伴フ収入又ハ寄附金ノ額ヲ控除シタル支出精算額ヲ謂フ

第二条 国庫ハ北海道地方費又ハ府県カ精神病院法第七条ノ規定ニ依ル代用精神病院ニ対支出シタル入院費ノ精算額ノ六分ノ一ヲ北海道地方費又ハ府県ニ補助ス

前項ノ精算額トハ北海道地方費又ハ府県の受クル入院費又ハ之ニ充ツヘキ寄附金ノ額ヲ控除シタルモノヲ謂フ

第三条 精神病院法第五条第一項又ハ第七条ノ規定ニ依リ徴収スル入院費ニシテ指定期限内ニ納付ナキモノニ付テハ国税滞納処分ノ例ニ依リ之ヲ徴収スルコトヲ得

第四条 入院費ノ徴収ハ必要アルトキハ納付義務者ノ居住地又ハ財産所在地ノ地方長官ニ之ヲ嘱託スルコトヲ得

第五条 精神病者入院中死亡シタルトキハ其ノ遺留財産ヲ以入院費ノ全部又ハ一部ニ充ツルコトヲ得

附則

本令ハ大正十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス 一部施行期日ノ件（大正八年八月三日勅令第三六五号）（大正九年十月二十二日勅令第四九〇号）（大正十二年六月三〇日勅令第三二四号）

一、精神病院法施行規則（大正十二年六月三十日内務省令第一七号）

第一条　精神病院法第一条ノ規定ニ依リ精神病院ノ設置ヲ命セラレタル北海道又ハ府県ハ内務大臣ノ認可ヲ経テ精神病院ノ位置設計及其ノ収容人員ヲ定ムヘシ其ノ変更ニ付亦同シ

第二条　市町村長又ハ町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ町村長ニ準スヘキ者ハ精神病者監護法ノ規定ニ依リ監護スヘキ精神病者ノ入院ヲ地方長官ニ申請スルコトヲ得

第三条　精神病者ノ監護義務者ハ医師ノ診断書ヲ添ヘ精神病者ノ入院ヲ地方長官ニ出願スルコトヲ得

第四条　精神病院法第二条第二項ノ規定ニ依ル診断ハ地方長官ノ指定シタル医師ヲシテ之ヲ為サシムヘシ

第五条　地方長官ハ入院者在院ノ必要ナシト認ムルトキハ速ニ退院セシムヘシ此場合ニ於テハ予メ当該精神病院ノ長ノ意見ヲ徴スルコトヲ要ス

第六条　入院者ノ監護義務者ハ入院者ノ退院ヲ地方長官ニ出願スルコトヲ得

第七条　精神病院法第四条ノ規定ニ依リ精神病院ノ長ノ入院者ニ対シテ行フヘキ監護上必要ナル処置ニ付テハ厚生大臣ノ認可ヲ得テ地方長官之ヲ定ム

第八条　精神病院法第二条及本令ノ規定ニ依ル地方長官ノ職務ハ東京府ニ在リテハ東京府知事及警視総監之ヲ行フ

第九条　本令第二条乃至第八条ノ規定ハ精神病院法第七条ノ規定ニ依ル代用精神病院ニ関シ之ヲ準用ス

附則

本令ハ大正十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

一、精神病院法施行ニ関スル件（大正八年八月十三日内務省発衛第一七一九号各地方長官宛内務次官通牒）

精神病院法制定ノ趣旨ハ別冊精神病院法制定理由ニ記述スル如ク精神病者ノ悲惨ナル実情ニ鑑ミ公共団体ノ施設ニ依リテ患者ノ保護治療ヲ施スト共ニ公安ノ保持ニ任セシメムトスル義ニ付宜ク其ノ意ノ在ル所ヲ諒シ遺憾ナキヲ期セラレ度尚ホ今般同法ノ一部施行相成候ニ付テハ之カ実施ニ当リ特ニ左記ノ事項御留意相成度依命此段及通牒候也

一　精神病者ノ入院及退院ハ自由並ニ公安ノ保持ニ至大ノ関係アルヲ以テ周到ノ注意ヲ払ヒ若シ其ノ入退院ニ付医師ノ診断意見一致セサルカ如キ場合ニ於テハ更ニ専門医ノ診断ニ待ツ等慎重且ツ迅速に処理スヘキコト

二　患者ヲ入院セシムルニ付テハ症状ノ軽重疾病ノ性質扶養関係ノ完否其ノ他各種ノ状況ヲ参酌シテ保護治療ノ急ヲ要スルモノヨリ之ヲ選定スル様留意スルコト

三　精神病院法第二条第二項ノ規定ニ依ル診断ニ従事セシム可キ医師ハ左ノ資格ヲ有スルモノノ中ヨリ指定スルコト

（イ）警察医其他道府県職員ニシテ精神病ニ関スル学識経験アルモノ

（ロ）代用精神病院長及医員

（ハ）其ノ他精神病ニ関スル学識経験アルモノ

四　司法第四条ノ規定ニ基キ精神病院ノ長ノ入院者ニ対シテ行フヘキ監護上必要ナル処置ハ医療ノ範囲ヲ超エ患者ノ身体ニ拘束ヲ加フル方法ナルヲ以テ之ヲ施行スルニ付テハ左ノ諸点ニ留意スルコト

（イ）放火逃走煽動其ノ他公安上危害ヲ生スル虞アル患者ニ限ルコト

（ロ）社会又ハ患者ニ対シ不快ナル印象ヲ与フヘキ用語例ヘハ監置又ハ監置室若クハ躁狂室等ノ用語ハ之ヲ避クルコト

（ハ）監護ノ為メ患者ヲ七日以上保護室（従来ノ躁狂室）ニ入室セシムルニハ地方長官ノ許可ヲ受ケシムルコト

（ニ）患者ニ対シ強制具又ハ縄紐ノ類ハ万止ムヲ得ザル場合ノ外其ノ使用ヲ避クルコト

五　看護人ノ良否ハ精神病者ノ取扱上最モ重要ノ関係ヲ有シ従来精神病院ニ関スル社会ノ批難ハ看護人ノ患者取扱ニ関連スルモノ多キ実情ナルニ依リ代用精神病院ノ経営ニ付テハ常ニ看護人ノ品性及技術ノ養成向上ニ留意シ殊ニ保護室ノ看護ニ従事セシムヘキ看護人ニ付テハ一層ノ注意ヲ払フコト

六　精神病院法制定ノ理由ハ可憐ナル精神病者ニ対シ保護治療ヲ行フコトヲ主タル目的トスル義ニ付道府県ニ於テハ宜ク此趣旨ヲ体シ患者ノ看護ニ任スルト共ニ入院費徴収ノ如キニ付テモ此趣旨ニ則リ可成無料トシ之ヲ徴収スル場合ニ於テモ其取扱ヲ寛大ニシテ苛酷ニ亘ラサル様留意スルコト

七　代用精神病院患者入退院ノ決定入院費ノ徴収其他諸般ノ法律関係ハ代用ノ範囲ニ於テハ地方長官ニ於テ之ヲ行フヘキモノナルヲ以テ其経費モ府県ノ負担ナルコト但シ経理ノ方法トシテ代用セシメタル精神病院ノ経営者ト協議シ患者一人当リノ経費ヲ定メ之ヲ交

付スルカ如キハ素ヨリ差支ナキコト

（別冊）一、精神病院法制定理由

我カ国ニ於ケル精神病者ノ数ハ明治四十四年二万五千七百九十三人ナリシカ其ノ後年々増加シ大正五年末ニ於テハ四万四千二百二十五人ニ達シ著シキ増加ノ傾向アリ昨年保健衛生調査会ニ於テ全国ニ対シ標準ヲ示シ警察調査ヲ行ヒタル結果ニ依ルニ六万四千九百三十四人ニ及ヘリ欧米諸国ニ於テハ調査精確ナル為精神病者ノ数ハ国民三百人乃至五百人ニ一人ノ割合ニシテ之ニ依リ我国ヲ律スルトキハ我国人口六千万中十二万人乃至二十万人ニ達スル割合ナリ

而シテ社会ノ複雑ヲ加フルニ従ヒ益々精神病者増加ノ傾向アルコト疑ヲ容レサル所ナルヲ以テ欧米諸国ニ於テハ之カ保護取締ニ関スル施設ノ整備ニ努メ英仏独諸国ニ於テハ精神病者ノ三分ノ一ハ官公立精神病院ニ収容シ北米合衆国ニ於テハ悉ク精神病院ニ収容スルノ状況ナルト共ニ病院ノ設備内容又頗ル見ルヘキモノアルニモ係ラス我国ニ於テハ国家及公安上ヨリ監置患者ノ取締ヲ主トシ不法ノ監置ヲ排除スルト共ニ監護義務者及市区町村長等ニ対シ精神病者ヲ監置スルノ権能ヲ与フト雖モ之ヲ監護スヘキ場所ノ設置等ニ就テハ何等ノ規定ナク従テ今ヤ精神病者監護法制定以来二十年ヲ経過セムトスルニ係ラス東京巣鴨病院ヲ除クノ外多クハ私立病院其ノ他ノ設備ニ収容セラルル患者ノ数ハ僅々四千名余ノ少数ニ過キス故ニ監置ヲ要スル患者ト雖約四千五百名ハ最モ不完全ナル私宅監置ニ附セラレ而モ其ノ多クハ中流階級以下ニ属スルカ故ニ惨状往々見ルニ忍ヒサルモノアリ

又監置ヲ要セサル患者ニ付テモ其ノ多クハ適当ナル保護治療ヲ受クル能ハサルヲ以テ時ニ恐ルヘキ犯罪ヲ犯シ年々百五十名ヲ下ラサル殺人放火等ノ危険ナル精神病者ハ多ク此等監置ヲ受ケサル者ノ内ヨリ生ス、而モ刑法ハ不論罪トシテ処罰セサルヲ以テ此等危険ナル患者ト雖モ凡テ不完全ナル監護ニ附セラルノ状況ナリ

斯クノ如キハ精神病者ノ保護治療ハ勿論公安上不備少カラサル所ニシテ畢竟之カ収容ノ場所ヲ私人ノ経営ニ委シテ顧ミサル結果ニシテ決シテ適当ノ処置ト謂フヘカラス、故ニ国家ト地方ト相協力シテ之カ施設ヲ為スノ必要ナルハ今ヤ多言ヲ要セサル所ナリトス、故ニ保護治療上ヨリ療養ノ途ナキ精神病者其ノ他監護上必要ナル精神病ヲ収容セシムル為道府県ニ対シ精神病院設置ノ義務ヲ命シ国家ハ之ニ補助ヲ与ヘ其ノ負担ヲ軽カラシムルト共ニ一面危険性甚シキ犯罪性精神病者其ノ他地方立精神病院ニ於テ監護困難ナル精神病者等ヲ収容セシムル為国立精神病院ヲ設置シ之カ監護ヲナスノ必要アリ然リト雖国家及地方財政ノ関係ハ俄ニ国家及道府県立精神病院ノ普及完備ヲ期スル能ハサルノ事情アルヲ以テ道府県立精神病ノ設置ヲ見ルニ至ラサル府県ニ於テハ既存ノ公私立精神病院ヲ利用シ之ヲ保護奨励セシムルコト必要ナリトス依テ精神病院ノ設置ノ維持管理等ニ関シ之カ諸般ノ関係ヲ統一シタル立法ノ必要ヲ認ムル所以ナリ

第一条 道府県立精神病院ノ設置

本条精神病者監護ノ実況ニ鑑ミ府県立精神病院ノ設立ヲ必要トスルヲ以テ主務大臣ニ於

テ北海道及府県ニ対シ之カ設置ヲ命シ得ルコトヲ規定シタルモノナリ、而シテ府県ニ於テ設置シタル精神病院ノ維持管理ニ要スル費用ハ府県ノ負担ニ属スルコト言ヲ俟タス

第二条 道府県立精神病院ニ入院セシムヘキ者ノ範囲及入院セシムヘキ条件

一 本条ハ精神病者監護法ニ対シ特別規定タルノ関係ヲ有シ地方長官ハ本条ノ規定ニ依リ其ノ職権ヲ以テ精神病者ヲ入院セシムルヲ得ルモノトス而シテ入院後ノ監護関係モ亦全然精神病者監護法ノ規定ニ依ラスシテ本法ノ規定ニ依ルヘキモノトス

二 本条第一項ニヨリ入院セシムヘキ者ノ範囲

１、精神病者監護法ニ依リ市区町村長ノ監護スヘキ者精神病者監護法第六条ニ基キ監護スルノ必要アルモ監護義務者ナキ場合又ハ監護義務者其ノ義務ヲ履行スルコト能ハサル事由アルトキニ於テ市区町村長ノ監護スヘキ者並同法第八条第三項ニ基キ精神病者ノ監置ヲ名セラレタル監護義務者其ノ命令ヲ履行セサルトキニ於テ市区町村長ノ監護スヘキ精神病者之ナリ而シテ本条ニ所謂市区町村長トアルハ市区制町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ市区町村長ニ準スヘキモノトス

２、罪ヲ犯シタルモノニシテ司法官庁特ニ危険ノ虞アリト認ムル者

第一 罪ヲ犯シタル精神病者ノ故ヲ以テ刑法第三十九条ニ依リ処罰スヘカラサル者

第二 罪ヲ犯シタルモ後ニ於テ精神病者トナリタル者ノ内司法官庁ニ於テ特ニ危険ノ虞アリト認メタル者之ナリ

勿論司法官庁ニ於テ危険ト認ムルモ地方長官ニ於テ設備ノ収容力其ノ他ノ関係上入院セシメサルモ可ナリ但シ此場合ニ於テ監置ノ必要アル者ハ精神病者監護法ノ規定ニ依リ監置スヘキモノトス

３ 療養ノ途ナキ者

監置ヲ要セサル患者ニシテ療養ノ途ナキ者ヲ謂フ

４、前各号ニ掲クル者ノ外地方長官特ニ必要ト認ムル者精神病者監護法ノ規定ニ依リ私宅ニ於テ監置スル患者ニシテ監護上精神病院ニ入院セシムルヲ適当トスル者若クハ関係人ヨリ特ニ入院ヲ希望シ地方長官ニ於テ特ニ入院ノ必要ヲ認メタル者等ヲ主ナルモノトス

三 本条第二項ハ精神病者ヲ強制入院セシムルハ個人ノ身体自由権ニ至大ノ関係アル故ニ医学上果シテ精神病者タリヤ否ヤヲ決定スルノ要アルヘク医師ノ診断アルニヨリ初メテ入院ヲ強制シ得ヘキモノトナシタルナリ而シテ診断ヲナスヘキ医師ノ範囲ハ命令ニ依リ之ヲ定ム

第三条 道府県立精神病院ニ対スル国庫ノ補助

補助方法及歩合ハ勅令ノ規定スル所ニ依リ第一条ノ規定ニ依リ設置スル精神病院ノ経費ニ対シ六分ノ一乃至二分ノ一ヲ補助ス而シテ勅令ノ規定ハ大体次ノ標準ニヨルノ見込ナリ即チ国庫ハ道府県ノ支出精算額ニ対シ左ノ区別ニ従ヒ補助ス但シ事業ニ伴フ収入又ハ寄附金等アルトキハ之ヲ控除シタル額ニ対シ補助ス

１、精神病院創設費拡張費並之ニ伴フ初度調弁費 二分ノ一

２、其ノ他ノ諸費 六分ノ一

３、代用精神病院ノ患者入院費ニ対シ道府県ノ支出シタル経費 六分ノ一

第四条 道府県立精神病院長ノ権限

精神病者ノ長ハ精神病院内ニ於ケル患者ノ保護治療ニ関スル責任ヲ有スルモノトス而シテ精神病者ノ医療上必要ナル行為ハ精神病院ノ長ハ当然行ヒ得ヘキモノナリト雖監置其ノ他監護上必要ナル処置ハ純粋ノ医療行為ト認ムルヲ得サル場合アルヲ以テ本条ニ依リ之カ処置ノ権限ヲ与ヘントスルモノナリ而シテ監置其ノ他監護上必要ナル処置ハ大体ニ於テ地方長官ノ許可ヲ受ケシメ緊急ノ場合ニ於テハ機宜ノ処置ヲ誤ラサル様後ニ於テ許可ヲ受ケシムル方針ナリ

第五条 道府県立精神病院入院費

本法ハ救済ヲ主眼トスルガ故ニ入院費ハ主トシテ道府県ニ於テ負担セシムルヲ目的トスト雖負担力アル者ニ対シテハ入院費ヲ徴収シ救済ノ度ヲ超エサラシメンカ為本条ノ規定アル所以ナリ、而シテ負担力アリヤ否ヤハ地方長官ノ認定ニ委シ厘毛ノ微ニ至ル迄之ヲ追徴スルノ趣旨ニアラス従テ大体ニ於テ負担力ナシト認ムルトキハ之ヲ免除スルヲ趣旨トス而シテ扶養義務者負担ノ範囲ハ民法ノ規定ニ依リ扶養スヘキ義務ノ程度トス

入院費徴収ノ方法ハ大体府県税徴収ノ例ニ依ラントスルノ見込ナリ

第六条 任意同府県立精神病院

本法施行前ヨリ道府県ニ於テ設置シタル精神病院又ハ本法施行後道府県ニ於テ本法ノ規定ニ依ラス任意ニ設置シタル精神病院ニハ地方長官ハ本法第二条ニ依リ精神病者ヲ入院セシムルコト能ハス主トシテ精神病者監護法ノ規定ニ依リ監護義務者ニ於テ入院セシムヘキモノトス而シテ道府県ニ於テ此ノ種ノ精神病院ヲ設置スルハ何等差支ナシト雖当該地方長官ニ於テ更ニ本法ニ依ル精神病院タラシムルノ意思アリ且設備其ノ他ノ点ニ於テ主務大臣ノ適当ト認ムルモノナルニ於テハ本法ニ依リ設置シタルモノト同一ニ取扱フハ何等差支ナク又実際ニ適スル場合アルヘシ故ニ此ノ場合ニ処スルタメ本条ノ規定アル所以ナリ

第七条 代用精神病院

道府県立精神病院ノ設備充分普及スルニ至ル迄本法第二条ニ依リ入院ヲ要スル精神病者ノ全数ヲ充分ニ入院セシメ難キヲ以テ道府県立以外ノ公私立精神病院ニ入院セシメテ監護救済スルノ必要アルヲ以テ本条ニ於テ代用精神病院ヲ認メタリ然レトモ代用精神病院ハ設備充分ナラサルヲ常トスルカ故ニ之ヲ無条件ニ認ムルニ於テハ監護上充分ナラサルノ感アルト共ニ一面道府県立精神病院ノ普及ヲ妨クルノ虞アルヲ以テ主トシテ代用精神病院ハ過度ノ場合ニ応スル施設タラシムルノ趣旨ナリ故ニ代用精神病院タラシムルモノニハ相当ノ期限ヲ附スルコトトナセル所以ナリ

第八条 訴願及訴訟

精神病者ニ対スル処置取扱ハ其ノ人身権ヲ侵害スルコト大ナルカ故ニ行政官庁ノ処分ニ対シテハ一定ノ救済方法ヲ設クルヲ至当トスヘク是レ本条ヲ規定スル所以ニシテ又他面

ニハ精神病者監護法ノ規定ト照応セシメタリ

一、精神病者監護法施行規則（明治三十三年六月二十八日内務省令第三十五号）

第一条 精神病者監護法第一条第二項但書ニ依リ監護義務者ノ順位ヲ変更シタルトキハ関係者ハ七日内ニ連署ヲ以テ警察官署ヲ経テ地方長官ニ届出ヘシ

第二条 精神病者監護法第一条第二項第五号ニ依リ監護義務者ヲ選任シタルトキハ親族会ハ七日内ニ警察官署ヲ経テ地方長官ニ届出ヘシ

第三条 精神病者監護法第三条ニ依リ精神病者ヲ私宅病院其ノ他ノ場所ニ監置セムトスルトキハ監護義務者ハ医師ノ診断書ヲ添ヘ警察官署ヲ経テ地方長官ニ願出又ハ届出ヘシ

第三条第一項但書ニ依リ精神病者ヲ監置シタルトキハ監護義務者ハ警察官署ニ届出ヘシ此ノ場合ニ於テハ医師ノ診断ヲ添フルコトヲ要セス

第四条 精神病者ヲ監置セムトスル場合ニ於テ地方長官ノ許可ヲ受クルノ暇ナシト認ムルトキハ監護義務者ハ医師ノ診断書ヲ添ヘ警察官署ニ願出ヘシ

前項ノ場合ニ於テハ監護義務者ハ三十日内ニ前条ニ依リ更ニ地方長官ニ願出ヘシ

第五条 前二条ノ願出又ハ届出ヲ為ス場合ニ於テハ監置ノ方法及場所ヲ記シ若シ私宅監置室ヲ設クルトキハ其ノ構造設備ヲ記シタル書類ヲ添付スヘシ

第六条 本則第四条第一項ニ依リ監置シタル精神病者ニ関シ三十日内ニ地方長官ニ監置ノ願出ヲ為ササルトキ又ハ地方長官ニ於テ願出ニ対シ不許可ノ処分ヲ為シタルトキハ警察官署ノ与ヘタル許可ハ取消サレタルモノトス

第七条 精神病者監護法第四条又ハ第五条ノ届出ハ監護義務者ニ於テ医師ノ診断書又ハ検案書ヲ添ヘ警察官署ヲ経テ地方長官ニ之ヲ為スヘシ但シ行方不明ノ場合ニ於テハ医師ノ診断書又ハ検案書ヲ添フルコトヲ要セス

本則第四条第一項ニ依リ監置シタル精神病者ニ関シテハ前項ノ届出ハ警察官署ニ之ヲ為スヘシ

第八条 私宅監置室ハ精神病者ノ資産又ハ扶養義務者扶養ノ程度ニ応シ相当ノ構造設備ヲ為シ及之ヲ管理スルコトヲ要ス

第九条 府県立ヲ除ク外公私立精神病院及公私立病院ノ精神病室ヲ設置セムトスルトキハ其ノ構造設備及管理ニ関スル事項ヲ具シ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ其ノ之ヲ変更セムトスルトキ亦同シ

第十条 精神病者監護法第七条及第八条行政庁ノ職権ハ地方長官之ヲ行フ但シ急迫ノ事情アルトキハ警察官署ニ於テ之ヲ行ヒ直ニ地方長官ノ指揮ヲ請フヘシ

第十一条 精神病者監護法第九条第一項行政庁ノ職権ハ地方長官之ヲ行フ但シ私宅監置室ニ関シテハ警察官署之ヲ行フ

第十二条 精神病者監護法第十一条行政庁ノ職権ハ内務大臣地方長官又ハ警察官署之ヲ行フ

第十三条 本則第九条ニ違背シタル者ハ十円以下ノ罰金ニ処ス

第十四条 本則第一条及第二条ニ違背シタル者ハ一円九十五銭以下ノ科料ニ処ス

第十五条 東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視総監之ヲ行フ

一、精神病者監護法第六条及第八条第三項ニ依レル監護ニ関スル件（明治三十三年六月三十日勅令第二八二号）

第一条　精神病者監護法第六条ニ依リ市区村長ニ於テ精神病者ヲ監置スヘキ場合ニ於テハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ．前項地方長官ノ認可ヲ受クル暇ナキトキハ市区町村長ハ警察官署ノ同意ヲ経テ三十日内精神病者ヲ監置スルコトヲ得但シ急迫ノ事情アルトキハ警察官署ノ同意ヲ経サルモ七日内假ニ之ヲ監置スルコトヲ得此場合ニ於テハ警察官署ニ通知スヘシ

第二条　精神病者監護法第六条及第八条第三項ニ該当スル精神病者アルトキハ地方長官ハ警察官署ヲシテ之ヲ市区町村長ニ引渡サシムヘシ但シ急迫ノ事情アルトキハ警察官署ハ假ニ之ヲ市区町村長ニ引渡シ直ニ地方長官ノ指揮ヲ請フヘシ

第三条 市区町村長ニ於テ監置シタル精神病者治癒シ死亡シ又ハ行方不明ト為リタルトキハ第一条第一項及第二条ニ依リテ監置シタル者ニ付テハ地方長官ニ報告シ第一条第二項ニ依リテ監置シタル者及第二条但書ニ依リテ仮ニ監置シタル者ニ付テハ警察官署ニ通知スヘシ

市区町村長ニ於テ監置シタル精神病者ノ監置ヲ廃止シ又ハ監置ノ方法若ハ場所ヲ変更セムトスルトキハ第一条第一項ニ依リテ監置シタル者ニ付テハ地方長官ニ報告シ第一条第二項ニ依リテ監置シタル者ニ付テハ警察官署ニ通知シ第二条ニ依リテ監置シタル者ニ付テハ地方長官ノ認可ヲ受ケ其ノ但書ニ依リテ仮ニ監置シタル者ニ付テハ警察官署ノ同意ヲ経ヘシ但シ監置ノ方法又ハ場所ノ変更ヲ要スル急迫ノ事情アルトキハ仮ニ之ヲ変更シ直ニ認可ヲ受ケ又ハ同意ヲ経ヘシ

第四条 市区町村長ハ其ノ監護スル精神病者ノ監置ヲ適当ナル公私ノ施設又ハ私人ニ委託スルコトヲ得

第五条 東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視総監之ヲ行フ